

# Kansai Economic Insight Monthly

2015/2/23

Vol.22 January/February

- ・APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。
- ・本レポートの内容は、公益社団法人関西経済連合会『関西経済レポート』と連携しています。
- ・レポート公開時期は毎月第二週金曜日を予定しています。
- ・執筆者は、稲田義久（甲南大学教授、APIR 数量経済分析センター長）、岡野光洋・林万平・木下祐輔・James Brady（各APIR 研究員）です。
- ・本編内の中国景気モニターは、APIR 中国経済分析のプロジェクトによるものであり、関西経済分析と連動して定期的に発信します。
- ・本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

## 目次

要旨	1
景気の現況	2
関空モニター	8
中国景気モニター	9
主要月次統計	11
Release Calendar	12

## 要旨

- ✓ 12月の鉱工業生産指数は前月比+0.3%と2カ月ぶりの上昇。結果、10-12月期は前期比+0.1%と2期ぶりに小幅増産となった。
- ✓ 1月関西の貿易は、輸出は23カ月連続で増加、輸入は2カ月ぶりに減少。結果、貿易収支は2カ月ぶりの赤字となるも、前年同月から-83.6%縮小した。
- ✓ 1月の景気ウォッチャー現状判断DIは小幅ながら2カ月連続の改善。訪日外国人の消費の拡大が改善に寄与。先行き判断DIは原油安や賃上げ期待もあり2カ月連続の大幅改善。消費者心理に下げ止まりの動きがみられる。
- ✓ 10、11月の現金給与総額の伸びは関西2府4県、関西コアともに前月から加速。賃金は上昇基調が続いている。
- ✓ 12月の大型小売店販売額は6カ月連続の前月比プラス。百貨店も6カ月連続のプラス。スーパーは5カ月連続のプラス。消費は緩やかながら改善を続けている。
- ✓ 12月の新設住宅着工戸数は前年比-21.1%と2桁減が4カ月続いている。持家、貸家、分譲が全て減少に寄与。
- ✓ 12月の有効求人倍率は3カ月連続で改善し高水準を維持。失業率は横ばいだが、非労働力人口減少と就業者数増加がみられ、雇用環境は改善傾向。
- ✓ 1月の公共工事請負金額は前年比-25.1%と3カ月連続の大幅減。公共工事受注は減速が続いている。
- ✓ 12月の建設工事は前年比+2.4%と32カ月連続の増加も、伸びは9カ月連続で1桁となった。公共工事受注の減速もあり、今後の伸びは停滞が予想される。
- ✓ 関西空港へ入国する訪日外客数の歴史的な高水準が持続している。12月は287,590人(前年比+49.3%)と23カ月連続で増加。結果、2014年の関空への訪日外客者数は317万4,280人となり、前年から36.4%増加した。
- ✓ 1月の中国の製造業購買担当者景況指数は、4カ月連続で前月から悪化。また、2012年9月以来28カ月ぶりに50を下回った。

### 【関西経済のトレンド】

	2014年												2015年
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
生産	➡	⬇	⬆	⬆	⬇	⬆	⬇	⬆	⬆	⬇	➡		
貿易	⬆	⬇	⬆	➡	⬇	⬆	➡	➡	⬆	➡	⬆	⬆	
センチメント	⬇	⬇	⬇	⬆	⬆	⬆	⬇	⬇	⬇	⬇	⬆	⬆	
消費	⬆	⬆	⬇	➡	➡	➡	⬆	⬆	⬆	⬆	⬆		
住宅	⬇	➡	⬆	⬇	➡	⬇	⬆	⬇	⬇	⬇	⬇		
雇用	➡	➡	➡	⬆	➡	➡	➡	➡	⬆	⬆	⬆		
公共工事	⬇	⬇	⬆	⬆	➡	➡	➡	⬇	⬆	⬇	⬇	⬇	
中国	➡	➡	➡	➡	⬆	⬆	⬇	⬆	➡	⬇	⬇	⬇	

#### 【鉱工業生産動向】

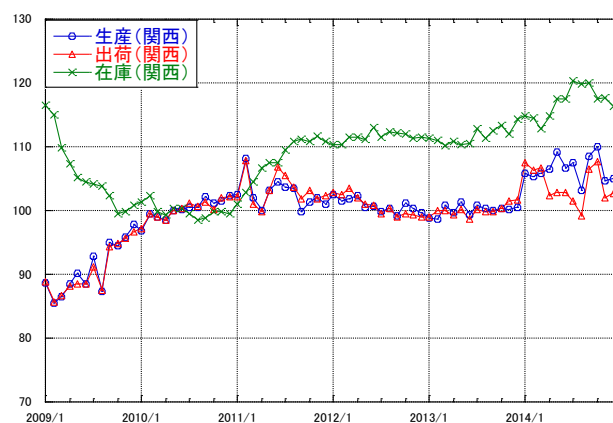
##### (1) 関西の生産動向

12月の鉱工業指数（速報値：季節調整済）を見ると、生産は105.0で前月比+0.3%、出荷は102.7で同+0.6%といずれも2カ月ぶりの上昇。在庫は116.4で同-1.1%と2カ月ぶりの下落となった。

業種別に生産指数をみると、電子部品・デバイス(同+4.2%)、化学工業(除. 医薬品)(同+1.8%)、輸送機械(除. 航空機・鋼船・鉄道車両)(同+3.3%)等が上昇した。一方、はん用・生産用・業務用機械(同-2.2%)、電気機械(同-2.7%)、パルプ・紙・紙加工品(同-2.4%)等が下落した。

生産は前月から小幅増産となり、結果、10-12月期は前期比+0.1%と2期ぶりに小幅プラスとなった。

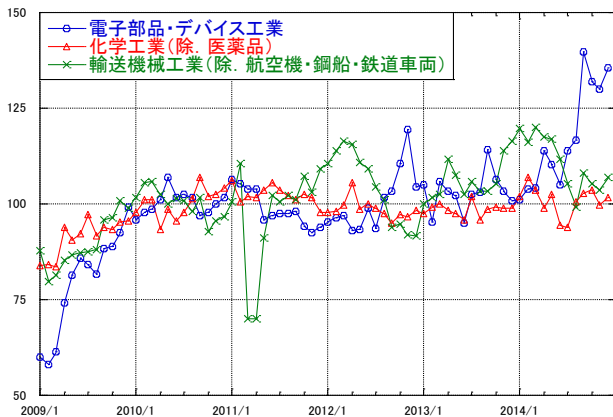
鉱工業指数の推移(関西：2014年12月まで、平成22年=100)



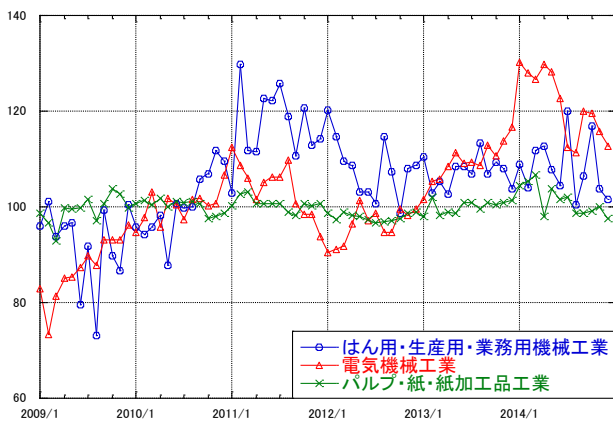
(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

業種別生産指数の推移(関西：2014年12月まで、平成22年=100)



業種別生産指数の推移 (続き)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

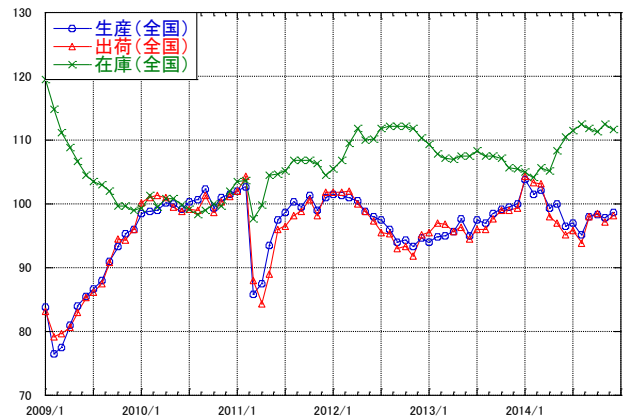
## (2) 全国の生産動向

全国における12月の鉱工業生産指数(確報値、季節調整済)は98.7となり前月比+0.8%、出荷は98.2で同+1.0%といずれも2カ月ぶりの上昇。在庫は111.7で同-0.7%と2カ月ぶりの下落となった。

業種別にみると、電子部品・デバイス(同+5.2%)、情報通信機械(同+10.8%)、化学(同+1.8%)等が増産となった。一方、食料品・たばこ(同-3.3%)、金属製品(同-1.9%)、鉄鋼(同-1.4%)等は減産となった。

足元、生産は増産となり、結果、10-12月期は前期比+1.7%と3期ぶりのプラスとなった。速報における製造工業生産予測調査では、1月(同+6.3%)は増産の予定だが、2月(同-1.8%)と減産の見込みである。

鉱工業指数の推移(全国：2014年12月まで、平成22年=100)



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

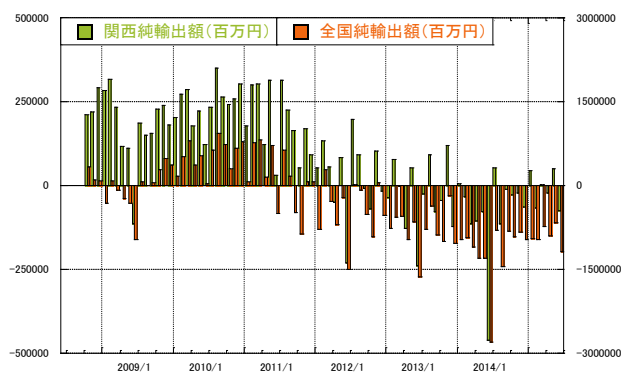
## 【貿易動向】

### (1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、2015年1月関西の貿易収支は-756億円と2カ月ぶりの赤字となったが、赤字幅は前年同月比-83.6%縮小した。全国の貿易収支(速報値)は1兆1,775億円と31カ月連続の赤字も、赤字幅は同-57.9%縮小した。このところ、貿易収支の赤字幅は大幅な縮小が続いている。

関西純輸出(左軸：百万円)・全国純輸出(右軸：百万円)推移

(2015年1月まで)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

### (2) 輸出

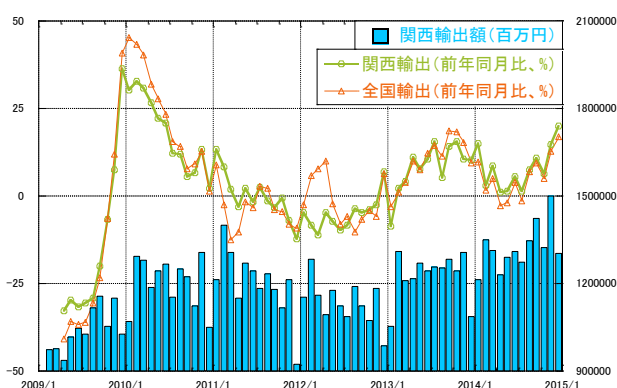
関西1月の輸出額(速報値)は1兆3,047億円となり、1月の最高額を更新した。前年同月比+19.9%と23カ月連続の増加。財別に見れば、輸出増加に主に貢献したのは、半導体等

電子部品、科学光学機器であり、いずれも単月過去最高額を記録した。一方、鉱物性燃料、有機化合物が減少となった。

全国1月の輸出額(速報値)は6兆1,447億円となり、前年同月比+17.0%と5カ月連続の増加。財別に見れば、自動車、半導体等電子部品、船舶等の輸出が増加した。

関西、全国共に輸出は増勢が続いている。なお、税関長公示レートベースで見ると、前年同月比-14.1%の円安であった。

輸出(右、百万円)・前年同月比(左、%)推移(2015年1月まで)

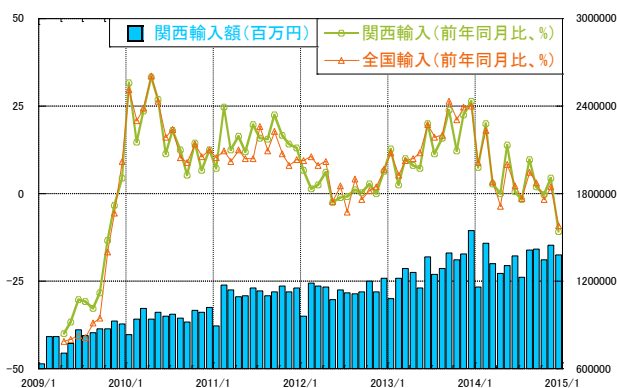


(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

### (3) 輸入

関西1月の輸入額(速報値)は1兆3,803億円、伸びは前年同月比-10.9%と2カ月ぶりの減少。財別に見れば、天然ガス及び製造ガス(単月過去最高額)、半導体等製造装置(単月過去最高額)等が増加した。一方、原油及び粗油、事務用機器の輸入は減少した。

輸入(右、100万円)・前年同月比(左、%)推移(2015年1月まで)



(出所) 財務省「財務省貿易統計」

全国1月の輸入額(速報値)は7兆3,222億円、前年同月比-9.0%と2カ月ぶりの減少。財別に見れば、原粗油、石油製品、液化天然ガス等の輸入が減少した。

なお、関西、全国の原粗油の輸入への寄与度はそれぞれ-5.6%、-7.1%であった。

### (4) 関西の地域別貿易

1月関西の貿易収支を地域別に見ると、対アジア貿易収支は前年比+455億円と12カ月連続の黒字であった。輸出は5カ月連続のプラス(同+22.9%)。財別に見れば、半導体等電子部品、原動機等が増加した。輸入は2カ月ぶりのマイナス(同-7.5%)。財別に見ると、事務用機器、衣類及び同付属品等が減少した。

うち、対中貿易収支は-1,570億円と35カ月連続の赤字。赤字幅は7カ月連続で前年同月から縮小した(前年比-46.8%)。輸出は10カ月連続で増加(同+29.9%)。一方、輸入は2カ月ぶりの減少(同-13.1%)であった。

対米貿易収支は+853億円と黒字基調が続いており、黒字幅は5カ月連続で前年から拡大した(前年比+73.7%)。うち、輸出は8カ月連続の増加(同+17.4%)。財別に見れば、鉄鋼、医薬品等が増加した。輸入は9カ月ぶりの減少(同-10.9%)であり、財別に見れば、無機化合物、有機化合物等が減少した。

対EU貿易収支は+146億円と3カ月連続の黒字となり、前年から437億円改善した。うち、輸出は4カ月連続の増加(同+11.5%)。財別に見れば、船舶、非鉄金属等が増加した。輸入は3カ月連続の減少(同-20.6%)。財別に見れば、医薬品、たばこ等が減少した。

### 【消費者センチメント】

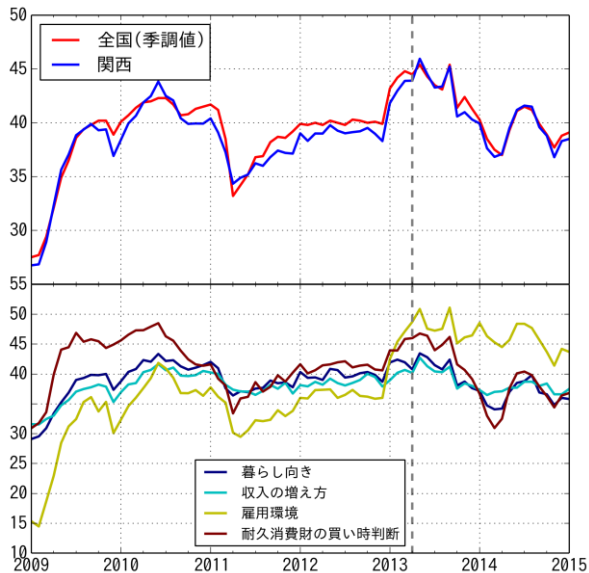
#### (1) 消費者態度指数の動向

関西の1月の消費者態度指数(原数値)は前月比+0.2ポイントの38.5と、2カ月連続の改善。全国(季節調整値)でも同+0.3ポイントの39.1と2カ月連続で改善しており、消費者心理に下げ止まりの動きがみられる。

関西で同指数の構成項目をみると、「収入の増え方」は同+0.9ポイントと3カ月ぶりに改善し、「耐久消費財の買い時判断」は同+0.4ポイントと2カ月連続で改善。一方、「暮ら

し向き」は同-0.2ポイント、「雇用環境」は同-0.5ポイントと、いずれも2カ月ぶりに悪化に転じている。

消費者態度指数(2015年1月まで)

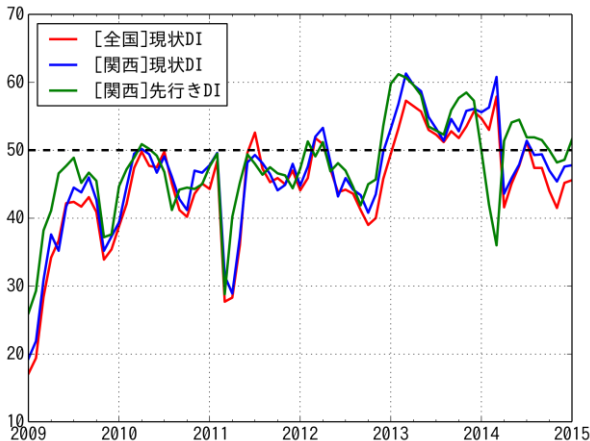


(出所) 内閣府「消費動向調査」

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西の1月の現状判断DIは前月比+0.2ポイント上昇し47.8となった。2カ月連続の改善。初売りが概ね好調だったほか、訪日外国人の消費の拡大がセンチメント改善に寄与したようである。全国も同+0.4ポイントと2カ月連続で改善し45.6となった。

景気ウォッチャー調査(2015年1月まで)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

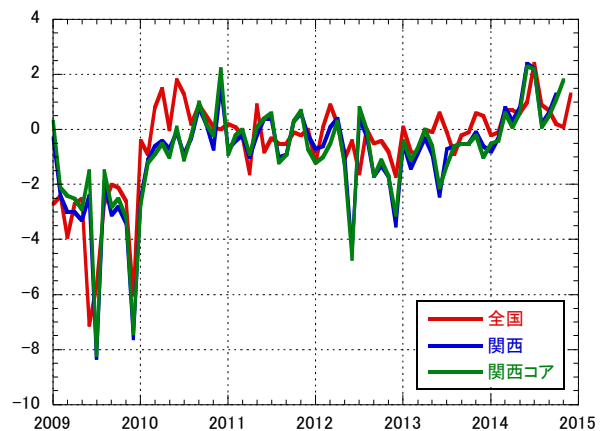
先行き判断DIは、関西では51.6と同+3.0ポイントの上昇。原油相場の低下による好影響や賃上げへの期待から、2カ月連続の改善となった。全国は50.0となり、同+3.3ポイントの改善。2カ月連続で改善している。

【所得・個人消費・住宅】

(1) 現金給与総額

10月の関西2府4県の現金給与総額(APIR推計)は26万7,128円で前年同月比+1.3%と8カ月連続のプラスとなり、前月(同+0.6%)から伸びが加速した。府県別では、和歌山県で前月(+1.3%)から+4.7%ポイント上昇し6.1%となり、伸びが最も大きかった。次いで、大阪府は同+1.6%の伸びとなり、前月(+0.4%)から+1.2%ポイント上昇した。その他、滋賀県同+1.5%、奈良県同+1.5%、兵庫県同+0.8%であった。一方、京都府では同-0.4%と8カ月ぶりのマイナス。超過給与・特別給与の下落が影響したようである。

現金給与総額(前年同月比：%、2014年12月まで)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(平成23年平均)で加重平均。

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」(2月18日公表)

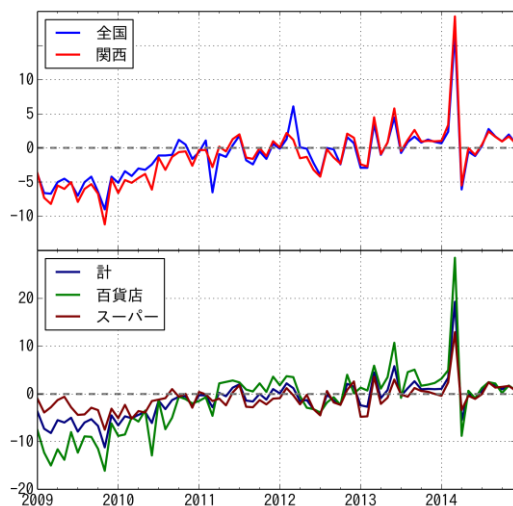
京都・大阪・兵庫の加重平均をとった「関西コア」賃金指数(APIR推計)は、11月に前年同月比+1.8%と9カ月連続のプラスとなり、前月(同+1.1%)から伸びが加速した。産業別では、生活関連サービス等が大きく上昇しており、外国人観光客増加への対応を受けたものと考えられる。賃金は上昇基調が続いている。

全国(確報値)の現金給与総額は、12月は前年同月比+1.3%(速報値:+1.6%)と10カ月連続のプラスとなり、伸びは前月から加速した。内訳をみると、所定内給与は同+0.2%とプラス基調を維持、所定外給与は同+0.5%と前月(+0.9%)から伸びは減速した。一方で、冬のボーナスが増加したことを受け、特別給与が同+2.1%と伸びた。現金給与総額から物価上昇分(帰属家賃を除く総合)を除いた実質賃金は同-1.7%と18カ月連続で低下したものの、前月(-2.7%)からマイナス幅は縮小している。

## (2) 大型小売店販売額

関西の12月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+0.7%と6カ月連続のプラス。百貨店も同+0.8%と6カ月連続のプラス。スーパーも同+0.7%と5カ月連続のプラス。

大型小売店販売額 (前年同月比: %, 2014年12月まで)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

全国でも、12月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+0.7%と6カ月連続のプラスとなっている。関西、全国ともに消費は緩やかながら改善が続いている。

## (3) 新設住宅着工の動向

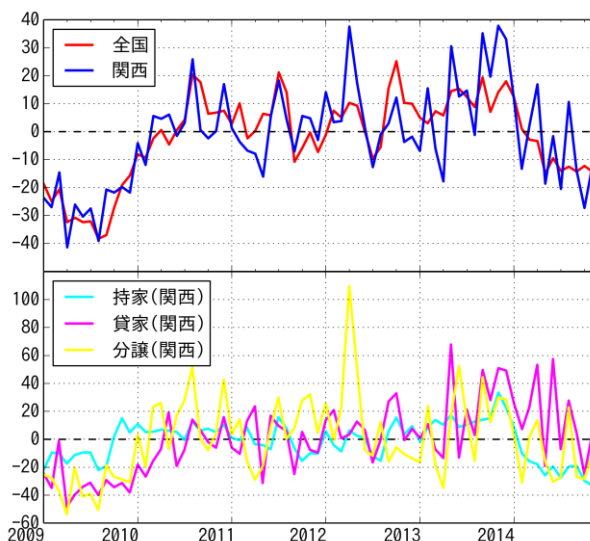
関西の12月の新設住宅着工戸数は11,625戸。前年同月比-21.1%と2桁の大幅減が4カ月続いている。全国でも同-14.7%と10カ月連続の減少。

関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は同-25.1%と11カ月連続で2桁の大幅減となっている。分譲も同-33.0%

と2桁減が4カ月続いている。貸家も同-8.5%と2カ月ぶりに減少した。

なお、1月の関西マンション契約率は79.3%(季節調整値、APIR推計)となった。好不調の目安となる70%を40カ月連続(原数値は12カ月連続)で上回り、販売は好調を維持。

新設住宅着工(前年同月比: %, 2014年12月まで)



(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

## 【雇用動向】

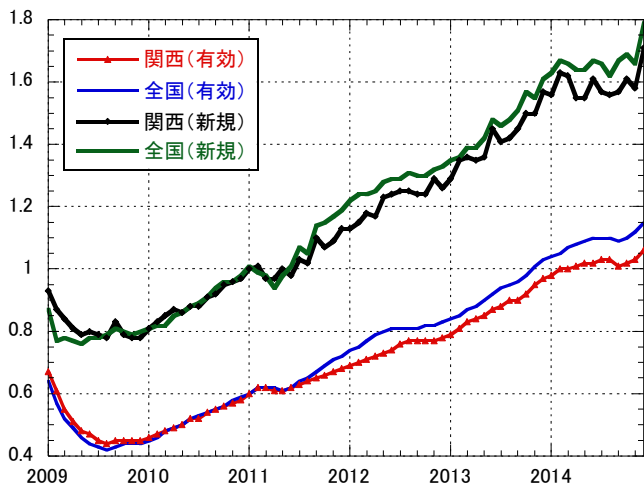
### (1) 求人倍率の動向

12月の関西の有効求人倍率は、1.06倍と前月比+0.03ポイント上昇し、3カ月連続の改善となった。全国は1.15倍で前月比+0.03ポイント上昇し、こちらも3カ月連続の改善。1992年3月(1.19倍)以来の高水準であった。

12月の関西の新規求人倍率は、1.71倍と前月比+0.13ポイントと大幅上昇し、2カ月ぶりの上昇となった。全国も1.79倍と同+0.13ポイントと2カ月ぶりの上昇。雇用環境は着実に改善している。

関西の有効求人倍率を府県別にみると、受理地別では全ての府県で改善した。就業地別では滋賀県が前月比+0.08ポイントと最も上昇が大きかった。

有効求人倍率の推移 (季節調整値、2014年12月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況 (平成27年1月30日発表)

関西2府4県有効求人倍率(2014年12月)

12月	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
受理地別	1.15	1.06	1.00	1.12	1.14	0.96	0.86	0.96
就業地別	1.14	1.06	1.19	1.15	1.03	1.05	0.99	1.05

(2) 完全失業率の推移

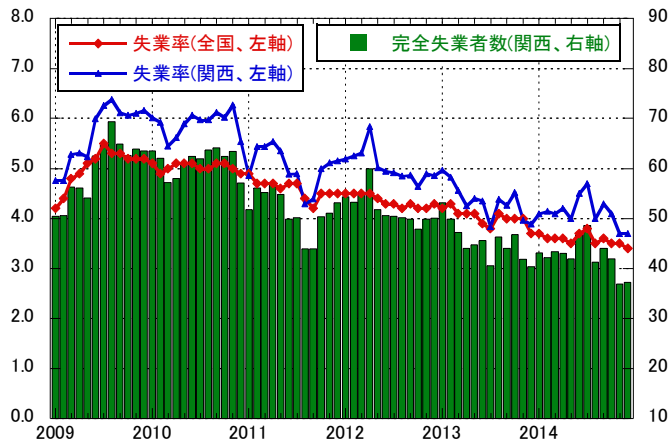
12月の関西の完全失業率(季節調整値:APIR推計)は3.7%となり、前月(3.7%)から横ばい。非労働力人口の減少(労働力人口の増加)と就業者数増加がみられ、雇用環境は改善傾向と考えられる。

関西の完全失業者数(季節調整値:APIR推計)は37.2万人。前月(36.9万人)から+0.3万人と小幅増加。

全国の完全失業率(季節調整値)は3.4%となり、前月(3.5%)から-0.1ポイント低下した。労働力人口増加と自発的な離職(自己都合)の増加による。1997年8月(3.4%)以来の低水準を記録。

全国の15~64歳の就業率(原数値ベース)をみると、73.1%と前月(73.0%)と比べて幾分上昇した。15~64歳の女性の就業率は64.4%と前月(64.5%)と比べて小幅下落したが高水準が続いている。

完全失業率の推移 (季節調整値:%,万人、2014年12月まで)



(出所) 総務省「労働力調査」(平成27年1月30日発表)

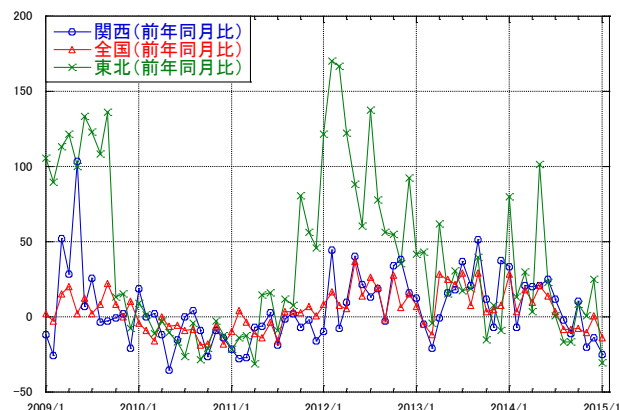
【公共投資】

(1) 公共工事請負金額

2015年1月関西の公共工事請負金額は706億円で前年同月比-25.1%と3カ月連続の大幅マイナスとなり、減速幅は拡大している。全国は6,708億円で同-13.7%と2カ月ぶりの減少。東北は1,264億円で同-30.5%と、前月から一転、4カ月ぶりの大幅減少となった。公共工事受注は減速が続いている。

季節調整値(APIR推計)で見ると、関西、全国共に2カ月ぶりに前月から大幅減少となった(関西:同-16.9%、全国:同-16.0%)。

公共工事請負金額(前年同月比:%、2015年1月まで)



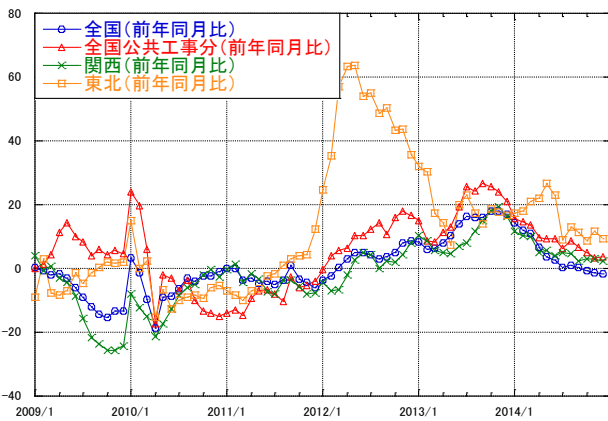
(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

(2) 建設工事

関西 12 月の建設工事は 6,096 億円、前年同月比+2.4%と 32 カ月連続の増加も伸びは 9 カ月連続で 1 桁となった。結果、10-12 月期は前期比+2.9%と 11 期連続のプラスとなった。

12 月の東北は 6,767 億円、同+9.4%と 41 カ月連続の増加。全国は 4 兆 8,346 億円となり同-1.7%と 3 カ月連続の減少。全国の公共工事は 2 兆 3,443 億円で同+3.7%と 35 カ月連続の増加も、伸びは 9 カ月連続で 1 桁にとどまった。公共工事の受注の減少もあり、建設工事の伸びは減速が予想される。

建設工事(前年同月比 : %, 2014 年 12 月まで)



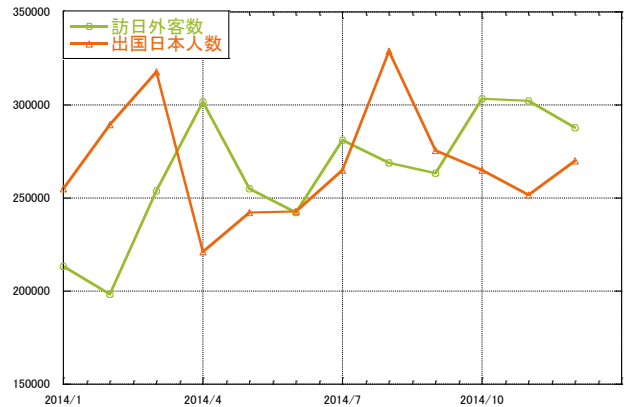
(出所) 国土交通省「建設総合統計」

【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

関空への訪日外客数は大幅な伸びが持続している。2014 年 12 月には、訪日外客数が 287,590 人(前年同月比+49.3%)と、23 カ月連続で増加。一方、出国日本人は 270,040 人(同-9.8%)と、12 カ月連続の低下となった。結果、2014 年の関空への訪日外客数は 317 万 4,280 人(前年比+36.4%)となった。なお、2014 年の全国訪日外客数は 1,341 万 3,900 人(同+29.4%)であり、関空のシェアは 22.5%から 23.7%に増加した。関西からの出国日本人 322 万 4,830 人(前年比-6.2%)であった。

訪日外客数と出国日本人数

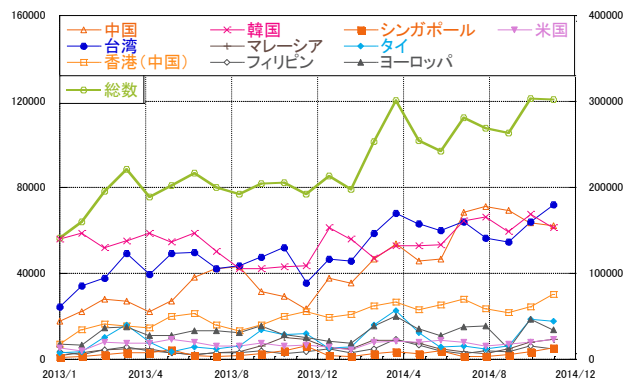


(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 地域別訪日外客数

訪日外客数を地域別にみると、2014 年 11 月には台湾からの入国が 71,902 人(前年同月比+38.5%)と最も多く、増加傾向が続いている。次いで、中国からの入国者数は 62,235 人(うち香港 : 30,334 人)。同+110.7% (香港 : 同+52.0%) と大幅増であり、中国・香港共に増加傾向が続いている。韓国からの入国者数は 61,318 人となり、同+42.6%と大幅増加した。5 カ月連続の 2 桁増。

地域別訪日外客数



右軸 : 総数、左軸 : 各国

(出所) 法務省「出入国管理統計」

他のアジア各国からの入国者数は、タイは 17,883 人(同+52.7%)で 2 カ月連続の大幅プラス。シンガポールは 5,383 人(同+39.3%)と 3 カ月連続の大幅プラス。フィリピンは 4,993 人となり、伸びは同+82.2%と大幅増加した。一方、マ



レーシアは9,361人(同-9.3%)と3カ月ぶりの減少となった。

他地域を見ると、ヨーロッパが14,020人(同+22.7%)と2カ月連続のプラス、米国が9,348人(同+52.8%)と3カ月連続のプラスであった。

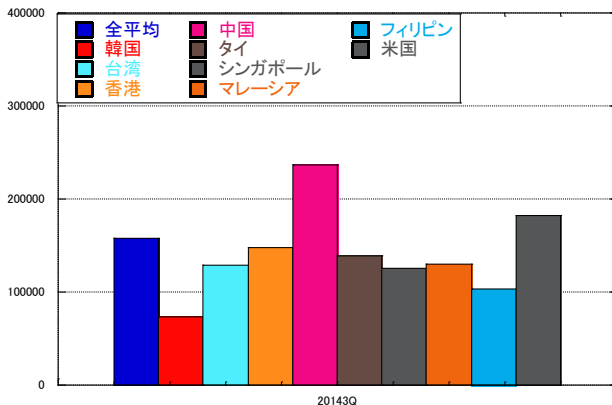
マレーシアを除き、関空への入国者数はいずれも大幅増となり、とりわけ中国からの入国者数の増加が顕著となっている。

### (3) 訪日外客支出

訪日外国人の平均支出額(全国平均)を見れば、2014年10-12月期に日本を訪れた外国人による平均消費額は15万2,471円となり、前年同期比+8.6%増加した。うち、中国の平均支出額は23万154円(同+4.3%)で、訪日外客者の中で最大であった。

関空への入国者数が多い他の国々について見ると、次いで支出額が大きいのは、米国の16万7,615円(同+10.9%)であった。その他、マレーシア15万5,489円(同+27.9%)、香港15万4,343円(同+4.0%)、シンガポール14万8,894円(同-10.2%)、タイ14万6,102円(同+12.9%)、台湾13万3,812円(同+16.4%)であった。なお、韓国の支出額は8万284円(同+0.4%)であったが、これは短期滞在が多いためと推測される。

国別訪日外客支出総額、2014年10-12月期(全国、円)



(出所) 観光庁「訪日外国人の消費動向」

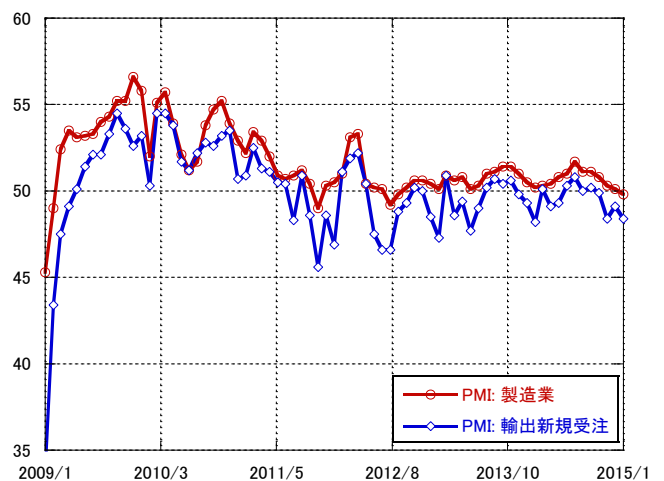
## 【中国景気モニター】

### (1) センチメント

1月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、49.8となり、前月から-0.3ポイント低下し、4カ月連続の悪化。50を下回ったのは2012年9月以来28カ月ぶりである。

うち、生産指数は51.7と同-0.5ポイント低下し、4カ月連続の悪化。新規受注指数は50.2となり、同-0.2ポイント低下し、6カ月連続の悪化。輸出新規受注指数も同-0.7ポイント低下し、48.4となった。2カ月ぶりの悪化で、4カ月連続で50を下回っている。加えて、雇用指数は47.9となり、前月から-0.2ポイント低下し、3カ月連続のマイナスとなった。2012年6月以来、32カ月連続で50を下回っている。すべての領域で景況指数は悪化している。

中国製造業購買担当者景況指数(2015年1月まで：%)



出所：中国国家统计局; CEIC データベース

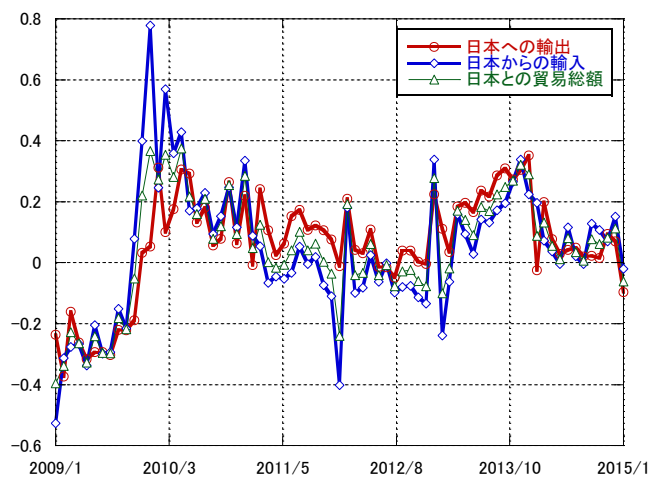
### (2) 貿易動向

1月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比-3.3%減少し、10カ月ぶりのマイナス。輸入額は同-20.0%(速報値)となり、3カ月連続のマイナスとなった。

うち日本への輸出額は同-20.6%となり、6カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同-13.9%となり、3カ月連続のマイナスとなった。

円ベースに換算すると、日本への輸出額は同-9.6%となり、11カ月ぶりのマイナス。日本からの輸入額は同-2.0%となり、5カ月ぶりのマイナスとなった。

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2015年1月まで : %)



出所 : 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

Contact : 岡野光洋・林万平・木下祐輔・James Brady

Tel. 06-6485-7695,

E-mail. [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp)



## Release Calendar for APIR Monthly

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
2-Feb 中国製造業 PMI* (1月)	3-Feb	4-Feb 毎月勤労統計 (12月:速報値)	5-Feb	6-Feb
9-Feb 景気ウォッチャー調査 (1月) 中国輸出入** (1月:速報値)	10-Feb 消費動向調査(1月) 近畿貿易統計 (12月速速)	11-Feb	12-Feb 近畿鉱工業生産指数 (12月速報)	13-Feb
16-Feb 全国鉱工業生産指数 (12月:確報値) 商業動態調査 (12月:確報値) 公共工事前払保証額 統計(1月) マンション契約率 (1月)	17-Feb 建設総合統計(12月)	18-Feb 毎月勤労統計 (12月:確報値)	19-Feb 全国貿易統計 (1月:速報)	20-Feb
23-Feb	24-Feb	25-Feb 近畿鉱工業生産指数 (12月速報)	26-Feb 全国貿易統計 (1月:速速) 近畿貿易統計 (1月速報)	27-Feb 全国鉱工業生産指数 (1月:速報値) 商業動態調査 (1月:速報値) 新設住宅着工(1月) 求人倍率(1月) 完全失業率(1月)
2-Mar	3-Mar	4-Mar	5-Mar	6-Mar

\* ) 中国製造業 1月の PMI は 2月 1日に発表した。

\*\* ) 中国輸出入(速報値)は 2月 8日に発表した。